

令和元年度 香南市人生支援計画 第1回 策定委員会 議事録

■【日 時】令和元年7月11日(木) 13時30分～15時30分

■【場 所】のいちふれあいセンター3階 第1・2学習室

■【出席者】14名

【議長】田内副委員長(香南市副市長)

有安委員(高知新聞社)、津村委員(全労災)、川竹委員(高知大学)、國松委員(香南ケーブル)

百田委員(青少年育成香南市民会議)、中脇委員(放課後こども教室)、

濱崎委員(香美市人権擁護委員会)、武田委員(夜須幼稚園)、白石委員(社会福祉協議会)

白石委員(社会福祉協議会)、古川委員(移住者)、川田委員(スポーツ振興協議会)

小松委員(社会福祉協議会)、福井委員(民生委員児童委員協議会)

欠席2名・・・坂本委員長(神戸医療福祉大学)、武田委員(PTA連絡協議会)

【行政】岩田地域支援課長、前川こども課長、山本学校教育課長、伊藤健康対策課長

西内福祉事務所長

欠席1名・・・宮崎高齢者介護課長

【傍聴】土居りえ

【事務局】地域支援課 岡本・近藤・久武

1. 開会

2. 議題

- ① 人生支援計画 各部会等の役割について説明 【資料3】
- ② 各部会報告について
  - ・ 各部会長からの報告 【資料4-1～4-3】
  - ・ 事務局長からの報告 【資料5】
  - ・ 意見交換

【幼年就学期部会】

○委員

(No.19)B 評価の、朝食を食べて来ない子どもたちに対して高知市内では、月一回程度ですがこども食堂を実施しています。また、課題もあると思いますが、そういったご意見等がありますか。

●健康対策課長

3歳児の朝食が減っているというのは、かなり問題視をしております、根本の原因というのが保護者の生活環境、生活習慣、重要性の認識度の問題というふうに捉えております。

3歳児のお子さんに朝食を作る、食べさせるために、早く寝かして、朝早く起こす。そういった生活習慣をやはり親が自覚しないといけないということで、健康対策課では、母子手帳を交付している妊婦

さんに対して、これからは自分一人の生活だけではないということで、まず妊婦さんの生活習慣を見直してもらおうことを、今は始めているところです。

各乳幼児健診におきまして、保護者の方に保護者の生活環境、生活習慣を含めて、栄養指導、保健指導を行っていくように考えているところです。

#### ○委員

状況がそれぞれの各家庭で違うと思いますが、一方でまた、朝ご飯を食べられない状況であるというのは、ある意味、児童虐待に近い状態という捉え方とすべきかと思います。「児童相談所にも通報することをしてください」という呼びかけもしているところなのでよろしくお願いいたします。

#### ○副委員長

他は、学校とか保育所、幼稚園での取り組みとかありますか。

#### ●学校教育課長

学校では、本来の家庭科の調理実習とは別に、食育についての朝食づくりを、ボランティアの方に入っただいて実施しています。特に、赤岡小学校では、自分たちでお弁当とか朝食を作れるような子に育てたいということで、年数回行っています。ほとんどの小学校、中学校で家庭科の授業以外の調理実習を実施しています。

#### ○委員

3歳児の食事摂取について、基本的に数値をおさえるにはどのように把握しているのか。  
例えば3歳児全員なのか、保育所の3歳児なのか。

#### ●健康対策課長

こちらの朝食摂取割合といいますのは、乳幼児健診に来られている方に対して、アンケートを実施しておりまして、3歳児健診というのは、受診率が90%近くございます。全員ではないですけれども、3歳児と保護者の朝食摂取率というのは、ほぼ把握できていると考えており、こちらのアンケートの数字により毎年傾向をみております。

#### ○委員

歯磨きに関しても、朝歯磨きをしていない子どもが多いというような傾向があると聞いています。  
夜は結構して仕上がり磨きもお母さんが毎回しているようですが、朝食を食べないことと併せて、洗顔もしない子も多少いるようなことを聞きます。

そういったところも基本的な生活習慣として、1歳から3歳の間に身に付けなければならないと思います。

また、外国人の方について香南市に何人住んでいるのか判りませんが、1歳児から5歳児までのお子さんが保育所、幼稚園に在籍しており、先生方と保護者のコミュニケーションを日本語と母国語で知りたいということがあったりします。どこが担当しているのでしょうか。

## ○副委員長

外国人の方が来られた時のフォローの課、外国人担当専用の課というのはございません。やはり、その用件や、内容によって、それぞれ対応する課が違うというのが現状です。多分、一番多く訪れているのは、市民保険課で住民票発行などのサービスが多いと思います。たとえば、観光のことは商工水産課になりますし、それぞれというのが、今の実情です。保育所には多く居ますか。

## ●こども課長

吉川みどり保育所を訪問した時に、海外の方がいらっしゃいますので、その方にはお便りなどが分かるようにできないかというのが課題になっているところです。

## ●学校教育課長

学校にも外国人の方がいます。子ども自身は日本語がわかりませんが、お父さんお母さんのどちらかは日本語がわかるけれども、どちらかが日本語が達者でないと直ぐの対応がむずかしい。そういう中で、学校でも色々提出していただく書類があります。学校では、ある程度英語が話せる研究所とか支援の方に、間に入っていただいて英語で通訳をしながら行っています。書類等も英語で書いた書類が無いために書き直してもらえないかという学校の要望もありますが、逆に英語で書かれますと今度はこちらが理解ができない。そのあたりが課題になっています。対応をしていく必要があると考えております。

## ●健康対策課長

乳幼児関係で外国人のお母さん方と接する事があります。まず、母子手帳ですが、日本語だけでなく外国語版も準備しております、英語版、タガログ語、韓国語などがあります。用途に合わせてお渡しをできるようにしております。

また、実施をしなければならぬのが予防接種で、どうしても文書で説明するのは難しく、その時には誓約をしなければならぬので、支援センター等にご協力いただき英訳をしていただいて訪問の時に一緒に同行していただく、そういったご協力をしていただきながら対応している現状がございます。今のところそういった対応で特に問題があるというようなことは聞いておりません。

## ○副委員長

外国人の方も多くなっており、コミュニケーションという意味では目の不自由な方であるとか、耳の不自由な方も含めまして、どういう具合にコミュニケーションを図っていくのが、今後大きな課題になっています。そういう部分を、一つはITを使っての方法はないものであろうか等、また全体で教えていただきたいと思っております。

## 【成年熟年期部会】

### ○委員

(No.47) 空き家バンク登録の件でお聞きします。期間 10 年で、修理をして、税が免除となり貸している。香南市では、どの様な制度でありますか。

### ●地域支援課長

この取り組みの先進地は梶原町です。なぜかというとな民間の賃貸物件が無い地域ですので、そういった受け入れ態勢をつくるということで、施策が進んでおります。

この中間保有の部分で、市が 10 年間借り上げて、修繕してというのが、「お試し住宅」という施策で一棟のみです。

空き家バンクに関しましては、空き家バンクに登録をしていただいて、人が住めるように、耐震改修とリフォームを行ってもらう。その代わりこれも 10 年という制約を付けたうえで、ご本人が 1,824,000 円の補助金を使って、改修をできる制度になっております。

### ○委員

(No.48) お試し住宅の件ですけれども、今後、増やしていくのかどうか。

KPI の中で、低料金で宿泊施設として利用されたいという方がいるということで、県外から、お遍路さんで来られる方や結構最近若い方が、パックパッカーの感じで来られる方も多いので、県外からの移住者を受け入れるということでは、例えばお試し滞在、一泊二泊になると、香南市を知ってもらうには、民間ホテルに泊まるよりも地域の事を知ってもらう。そのためには、お遍路さんが通る道筋に建っていないといけないとか、誰が管理するのか問題がでてくると思いますが、もう少し気軽にお試し体験が可能な施設が増えたら移住者の方も増えるのかなと思いました。

### ●地域支援課長

一泊二日や二泊三日で香南市を知っていただくことは難しいです。今、最長三か月を設けていますけれども、三か月でも難しいとおっしゃる方がいらっしゃいます。三か月間住んでいる間に、地域を知るのに、まずそこに慣れるのに一ヶ月。次の一ヶ月で地域の住民の方とコミュニケーションをとっていきます。そして、三か月目にやっと仕事を探そうかなと。

一泊二日、二泊三日で香南市を知っていただくというのは大変難しいです。

観光などそういった切り口としては良いのですが、移住の施策としては、もう少し深くしっかりと香南市を知っていただきたいという意味で、今のところ短期滞在施設としては考えておりません。

### ○副委員長

観光として民間のほかに民泊、香南市の民泊の情報があれば。

### ●商工水産課長補佐

民宿のような形で保健所に登録をし運営されているところはありますが、個人のお家へどなたかを泊められている民泊は今のところありませんし、やりたいというご希望の声も今のところ聞いておりませ

ん。

●地域支援課長

一件相談があったのが、ゲストハウスを作りたいという相談がございました。

○委員

(No.45、46)移住に関しましては、平成30年度29組ですとか、ホームページのアクセス回数もすごく多くなっており、香南住む一歩、香南市のホームページでは、詳しく農業や漁業の補助金のことも載ってまして、すごく良いものだと見ております。

移住についてお仕事についても、香南市とかその近辺に、地域おこし協力隊さんもいらっしゃいますが、それ以外の方のお仕事はどんなものに就かれているか。

(No.55)地域のボランティア活動に関してなんですが、ボランティアをする方も凄く生きがいになってお互い楽しみとして凄く良いことだと思っております。

このボランティアはどのようなものがあるか、教えていただきたい。

●地域支援課長

昨年度、相談窓口を通して移住した人が29組50人。会社に勤めている方が多いです。香南市内だけではなく、香南市は高知市や南国市へも近いということで、そちらの方へお勤めになる方、そしてUターンの方がいらっしゃいます。Uターンの方につきましては、若い世代が意外と多いです。20代で東京とか大阪に勤めた後、数年働いて帰って来られる、その方は無職の方多いです。

Uターンの補助金を使って8の方が帰っておりますが、そのうちのほとんどの方が無職でした。香南市だけではなかなか職業を作るのは難しいと思いますので、仕事とあわせて帰ってきてもらえたらという課題はあります。

●福祉事務所長

福祉事務所の方に就労支援員が在籍しており、主に生活保護の就職をお世話する者ですが、ハローワークとも連携し、のいちふれあいセンター1階に求職の情報を掲示しています。移住の希望者についても就労支援員が紹介するようにしていますので、活用していただけたらと思います。

●地域支援課長

地域支援課では4月から、地域おこし協力隊1名と市の職員1名が無料職業紹介所の責任者講習を受けて資格を取得しました。地域支援課の方では求人情報の貼り出しはしてないですが、仕事の支援ができるようにしました。

○副委員長

仕事という面では本市では、農業や漁業とセットで定住という施策をとっていますが、まずは、そこは地域おこし協力隊として山北でみかんを栽培しながら、将来は農家をやっていただく方法などを、今現在はやっていただいています。

あと、地域ボランティアとかの関係はどうでしょうか。

### ●委員(香南市社会福祉協議会)

香南市の社会福祉協議会のボランティアセンターでは、現在、個人は141名、団体36団体、登録がございます。多いのが施設での草引きであったり、お達者教室利用者への支援であったり、最近多いのは子ども食堂で、野市町と夜須町、こども食堂もボランティアさんで成り立っています。

野市町では、5、6人のボランティアさん、夜須町では、20人位のボランティアさんが協力してくれています。受け入れ施設は、こども食堂であったり幼稚園であったり、色んなところが増えております。

### ○委員

(No.50、51、52、54、56)健康対策といろいろなポイントであるとか、スポーツの部分とか、何かに挑戦するであるとか、スポーツで自分の好きな事をやるとか、そういう部分については、だいたいA評価ですが、健康に関する部分でメタボリック、運動習慣であるとか、いろんな部分で、そういった部分についてB評価が多いと感じます。

参加することによって、健康づくりについての部分、そこらあたり健康意識が低いのか、今後そういった部分をどうやってA評価に近づけていくか、もう一つ動機付けとかそういった部分で、ポイント制になれば本人に得になり、参加率が高いとか。どんな風に進めていったらよいか。何かあるんじゃないかと思いますが。

### ●健康対策課長

ポイントになるというところでは、県の健康パスポート事業がございまして、香南市でも特定健診を受けたらピンクシール1枚 緑シール2枚 すでにパスポートの取得をしている方について、集めたい、参加したい方については、健診を受けることで、ポイントが得られるような取り組みもしています。特定健診に限らず、がん健診を受けたら、すべてのがんでポイントを取得できるという取り組みもしております。また、(No.32)健康チャレンジポイント チャレンジ者数ということで、健康パスポートを取得している方で、血圧とか運動、朝食の項目で何か目標を決めて一ヶ月取り組んだ人には5ポイントを付与という、日々の生活の中、習慣づくりがすごく大事なので、血圧を毎日測る、運動を毎日行う、朝食をバランス良く食事を摂ったらということで、記録用紙を渡して一ヶ月間実行してもらおう。記録用紙を提出してもらおうことで、5ポイント付与というふうに、健康パスポートを使った、健康の取り組みも現在しているところです。

香南市は、高知市について健康パスポートを取得している方が多いということで、県下2番目です。

約2,800人の方がパスポートを取得されています。

パスポートを取るだけでなく、やはり生活習慣を見直すきっかけづくりにしていきたいと考えております。そのあたり、パスポートにポイント取得を合わせた健康づくりを展開しています。

### ○委員

特定健診に来られている方はかなり年齢が高いと思いますけれども、その健康パスポートをもっている方はその中にどれくらいの割合いるのでしょうか。

### ●健康対策課長

割合は確認したことはないですが、健診会場の中で、パスポートも発行できるようにコーナーを構え

ております。そこで、受けられた方全員にパスポートの取得について、お声かけさせていただいてますけれども、約 7 割は取得されていると思います。

#### ○副委員長

(No.42)運動習慣、C評価もありますが、これについては何かありますか。

#### ●健康対策課長

C評価になっているのは、20歳から39歳までの方で、特定健診を受けた方で30分以上の運動を週3日、1年以上継続しているかというアンケート項目がございます。30分以上というところと、週2回以上の運動を1年以上継続することが非常に難しく、時間的に若い方にこういったアンケートを取ると非常に低いということになっております。香南市としては、運動としてウォーキングを実施していくことで、ウォーキングマップのパンフレットを6種類作って、それで啓発を進めています。

#### 【高齢期部会】

#### ○委員

(No.72) 定年後の再就職支援 シルバー人材センター登録者数について、平成30年はその手前の2年よりも人数が減っているということ、目標の数も下回っているというところですが、その年代の方が減っているわけではないと思います。その年代の方は増えていると思います。例えば、就労先のジャンルが限られているとか、何か改善していくべき点というお考えがございますでしょうか。

#### ○副委員長

シルバー人材センターの方でも会員さんの減少が大きな課題となっております。一人の会員ができるだけもう一人連れてこようとか、色々なことを取り組んでいます。一般的には、元々が60歳以上でしたが、それがだんだんと65歳以上に。そこから、まだ働きざかりというようなこともございます。

色んなご要望はありますが、全部が全部受けきれないという実情はあります。ただ、例えば、行政の方からもゴミ出しの生活支援を言われたような事もございますし、ここ何年かは、バスなどそういう運転というのもシルバーの方に増えてきました。以前からですけど、植栽や草引きでありますとか、やはり多いです。シルバー人材センターとしては、会員さんをできるだけ増やしていきたいですけど、そこがなかなかよう増え切っていないという実情がございます。

#### ○委員

(No.61)口腔機能向上教室及び高齢者食生活改善栄養教室参加者についてですが、教室の参加者数ですが、H28年に246の方が利用されています。高齢になるにしたがって、口腔のことや食事のことは大事だと考えると、利用者数の数が減ってしまったということについて、お聞きしたい。

#### ●高齢者介護課長補佐

口腔機能向上教室につきましては、食生活改善推進員さんの協力のもとに野市地区では3地区でやっ

ています。

【報告全体についての意見交換】

○委員

今年度から始まった LINE のことについてですが、担当されている部会というのはどちらの部会ででしょうか。

●地域支援課長

LINE の取り組みにつきましては、昨年度の幼年就学期部会で、もっと身近に香南市の情報が手軽に簡単に見られたらいいなという意見が出ました。やはり、今の若い世代、子育て世代のお母さま方は、LINE を利用されます。簡単で無料というところで、それを活用した情報発信を市としても実施しましょうということで、この人生支援の部会から生まれた取り組みでございます。そこで、各関係課のとりまとめ課として、地域支援課でこの施策は進めておりまして、部会を飛び越した事業と思っていただけたらよいかと思います。

今年度、7月1日から運用を開始しました。今年度は400名のお友達登録をしていただきたいと思います。また、市内の保幼小中の保護者の皆さんに向けまして、児童生徒を通じて、お母さま方にも登録してほしいというご案内と依頼をさせていただいております。

○副委員長

せっかくなので、今後 KPI の数値材料にしてみてもどうかということですので、ぜひ検討していただければと思います。

○委員

空き家バンクのことについてお聞きします。市内にかなりの数の空き家があると思います。

利用によっては、人口増につながると思うんですけども、市内の空き家の調査は行っていると思いますが、何軒くらいでしょうか。

●地域支援課長

空き家の事業としては地域支援課で活用事業、防災対策課で老朽化の除却をする事業を行っております。昨年度から、地域支援課の移住相談員と臨時職員が、仕事の合間をぬって活用ができる空き家の調査にまわっております。

昨年度現地確認できているのがトータルで228件、これは活用ができる空き家としての数字です。次に、後追い調査としてお手紙を出したのが77件。それに対して、トータルで回答があったのが20件。空き家バンクの登録につながったのが3件でございます。仕事の合間をぬってですので、進捗状況は早くはなりませんけれども、今年度も引き続き調査をしていきます。その中で地域の人からこの空き家ちょっと危ないよというものについては、防災対策課に繋いでおります。

○副委員長

皆様も、見えそうな空き家の情報があれば地域支援課へ情報をお寄せください。よろしくお願い申し上げます。

③ 年間スケジュールについて説明(事務局 地域支援課より)

3.閉会